

[公募展]

# 「国際漆展・石川2009」 入選

井波 純

2009年1月21日

展示会：めいてつエムザ8階催事場（金沢市）



図録表紙



作品 No.31

悠

Far

H16×W87×D32  
2008

井波 純

INAMI, Jun  
(JAPAN)

【作品の意図】

アジアの広大な大地や人々の心を表現した造形作品です。器の形を借りた乾漆表現と、波や風の流れとも感じられる木の表現を組み合わせました。

【技法】

乾漆造形は型に対し最初に本地呂漆を塗り次に朱漆を塗る。その上を下塗り。下地有難せと通穴の仕上げの塗の手順で行なう事で型の不規則な隆起が自然なまだら模様表現となった。木は料を用い漆を塗り重ねた。

入選作品「悠」

この展覧会は 1989 年に始まり、「漆の新しい広がり」をテーマに行われている国際公募展である。現在はトリエンナーレとして開催されており、全世界より 215 点の応募作品が寄せられ今回の入選は 82 点であった。

#### 作品解説

この作品はアジアの悠久の大地やその流れの中にあるおおらかな人々の思いをうつわの形を借りて表現した造形作品である。乾漆技法を用い制作されている。

[共同研究、研究成果報告]

### **「轆轤文化の調査研究 -中国地方の轆轤文化と技術を中心に-」** **広島市立大学准教授 大塚智嗣、** **会津大学短期大学部准教授 井波 純**

2008 年 3 月

広島市立大学特定研究助成を受け、大塚智嗣准教授を代表研究者とし中国地方の轆轤文化と技術を中心に高齢化とともに減少する木地挽き轆轤に関する現地調査を行い、それぞれの特徴や歴史を捉えた上で、技術の紹介や現状について、また今後の技術保存に向けた調査研究を行った。

平成 15 年度から 17 年度の期間、中国地方を中心に全国の木地挽き轆轤との比較も含め各地にて現地調査を行った。各自治体にも協力を仰ぎ、現存者を確認しながら産業としての木地挽き轆轤の継承者を訪ね、現地の関係者からの聞き取りによる地域の轆轤文化に対する歴史的経緯についての証言を得るなど直接の検証を行った。平成 18 年度以降はそれまでの検証を元に更に補足的な現地調査も行い、その考察をまとめ報告書の作成を進めた。

報告書の中で、「第 2 章中国地方を中心とした轆轤」のうち、第 3 項「鳥取の民芸運動と轆轤木地師」、第 4 項「岡山の轆轤木地師」、第 5 項「島根の製鉄と雲州算盤」を担当した。

[展覧会発表]

## 個展「井波純 うるし展」

井波 純

2008年11月10日～11月19日

ギャラリー愚怜

東京都文京区ギャラリー愚怜において個展を開催。

現代の生活空間を創造するための漆芸作品の提案。漆の持つ表現力を生かした造形作品の展示を行う。

井波純うるし展  
2008.11.10(日)～11.19(日)



《南無文 どんぶり鉢》 160×105mm

愚=怜

[グループ展発表]

# 「手のひらの宇宙」展

井波 純 他 9 名

2008 年 10 月 25 日～10 月 31 日

竹柳堂ギャラリー

東京都中央区銀座竹柳堂ギャラリーにおいて新しい漆芸表現を目指す作家 10 名によるグループ展示を行った。

